

南伊勢町町政刷新委員会 最終報告

2010 年 9 月 27 日

目 次

1. 町政刷新委員会の設置目的
2. 設置目的に関する委員の見解
3. 委員会の進行状況
4. 政策テーマに関する意見交換の内容
 - 1) 交通：町営バス
 - 2) 健康：医療と介護
 - 3) 産業活性化：観光と第一次産業の連携、雇用の創出
 - 4) 町政運営：財政健全化
 - 5) 町政運営：地域運営
 - 6) 町政運営：行政運営
5. 委員が提案したテーマに関する意見交換の内容
 - 1) 町の将来予測：限界集落
 - 2) 町の将来像：人口増に向けて
6. 町政刷新委員会のまとめ
7. 町政刷新委員会後の取組みに向けて
8. 町政刷新委員会を受けて、小山町長からのメッセージ

1. 町政刷新委員会の設置目的

小山町長から委員への投げかけ（第1回委員会議事メモより）

- 合併後4年が経ち、5年目に入った。今までの4年間は、合併後のさまざまな調整が必要だった期間。地方分権の流れのなかで、南伊勢町のことは自己責任で進めていかなければいけない。
 - これからが新しい町づくりに取り組むときであり、新しい町づくりには、町民一人ひとりの町政への参画を求めていくことが大切。町づくりという観点から見れば、町政は町民と行政がともに担うもので、そのための環境づくり、場づくりは役場行政組織の役割。
 - 町政刷新委員会でご検討をお願いしたいこと
 - ① 町政運営にあたって町民と役場との関わり方をどうしていくのか
 - ② 各団体、各業界と役場との役割分担、協働をどのようにしていくのか
 - ③ 町民にとっての役場はどんな役場であったほうが良いのか
 - ④ 各政策の実現の仕方はいままでの通りでいいのか、政策が町民にとっての政策になっているのか、町政の方向性は正しいのか
 - ⑤ 実際の政策検討は、刷新委員会を受けて、総合計画策定の過程で研究、検討
- 町長としては、従来の町で設けた委員会のように、団体を代表する委員が中心では、住民が積極的にまちづくりに参加し、住民自らが地域の課題を進んで担う姿が実現しないと考えた。もちろん、団体を代表する方々の意見も十分取り入れるが、これまであまり町政に参画する機会がなかった方が参加することが望ましいと考えていた。公募委員が多く集まったことで、メンバーとしては、町長が期待したかたちになった。

小山町長から委員への投げかけ（第2回委員会議事メモより）

- 最初に行う町政の刷新とは何かということ、役場と町民の関係、議会と役場の関係、そういうもの全てにおいて、政策を考える以前の問題がまずあると思っております。そういうところを町民の皆さんがどう思っているのかということを検討することが、最初にすることであり、そのうえに政策が成り立つと思っております。
- 人口減が一番大きな問題であるとか、ここで政策を考えていただくのではなく、それらの意見は、是非、総合計画を作るときなどにいただきたい。今回、回数が少ない中で、役場がどれほど町民に関わっているのか、また役場や町政に皆さんがどのように関わっているのか、今までのやり方を見直していかないと、町民のための町政にならないだろうという気持ちがあります。
- 人口減とか産業振興とかについても、役場の職員の関わり方をきちんと整理し、そのうえで、次の政策をやるときには、分析も大事ですが、まず役場と町民の関わりをきちんとしないと出発できないと思っていたので、前回お願いしました。
- いかに町政に町民の皆さんが参画していただけるか、その参画していただくためにはどうするのが、私の一番の課題だったので、それを申し上げたのです。ここでの政策についての議論の中で、町民がどう関わって、役場との関係をどうしていくか、皆さんからご意見をいただければと思っています。
- 根本のところをしっかりとしなければと思っています。

2. 設置目的に関する委員の見解

- 町民が町政に参加し、町民と役場の新しい関係を作ることが「町政刷新」であるという町長の投げかけについては、理解されないわけではなかったが、それでは町政刷新を具体的に踏み出す上で、この委員会では何をどう議論してよいのか、その点については、食い違う場面があった。
- 多くの委員が、町政の刷新＝政策の方向づけ、という認識を強く持っていたため、委員会の中では政策課題について何らかの施策提案をしたいという意見が多く出た。
- 町民や役場の役割や関わり方については、政策課題を考える中で次第にイメージができる状況にあり、第二回で行った具体的な事例情報をもとにしたグループ別会議で、関わり方についての議論が比較적よくなされた。
- 最終的には、議論したことが本当に町政に反映されるのだろうかということについて疑問や不安、今後の扱いについて明確にして欲しいといった要望、何らかの形で反映されることへの期待がある。
- なお、町長の役割に関して、町のリーダーとして期待することについての意見が出された。これについては委員の間で異なる見解が見られた。

委員の発言（各回委員会議事メモより）

<議題について>

- これからの町が進んでいくまちの形を決めることだと思うので、しっかりとわかりやすく決めてもらいたい。（第1回）
- 町民へのアプローチの仕方も、ここで提案すべきだと思う。（第1回）
- 町政のあり方について、白紙の状態、ゼロから客観的に見直して、どこに問題があるかということを見て、そのうえで大きな問題を解決するものだと思って応募した。（第2回）
- この委員会の出発点がどこなのか、今の町政を容認する形でスタートするのか、刷新しなければならないところを次々と掘り返していくのかという点で、刷新するということは、現状を認識して、それを見直していくのだという方向で進めてほしい。（第2回）

<結果の反映について>

- この委員会の役割について、ここで決まったことについて、どのような形で皆さんに周知して、実践していくのか、そういう道筋をきちんと示してほしい。（第1回）
- 何か一つでも二つでも大事な項目を話し合っ、それを次の5年、来期の南伊勢町のあり方のコアになるように、結論を出して、何かの形で残したい。（第5回）
- 基本に戻って、自分たち応募委員がこの場にいる意味を聞きたい。応募委員7人の熱い思いがいつ議論できるのか知りたい。迷走状態に入っているようだ。それぞれの熱い思いを何について、どう方向付けして、どんな形で政策に反映させられるのか、しなくてもいいのか、ただこうして喋っているだけなのか、そこが知りたい。（第5回）
- 第1回目からこの不安を皆が持っていた。この委員会がどこへ向かっているのか、そしてここで決めたことがどれだけ実行できるのかを明確にしてほしい。（第5回）
- 時間だけが過ぎてしまっているが、住民はこの刷新委員会を立ち上げたことについてどういうふうな結論になったのか興味を持っていると思う。ここに参加している委員についても何らかの形で自分たちの意見が町政に反映されればという思いがあると思う。（第5回）

<町長の役割について>

- 町長の理念は理解できない。話を聞いて、では私は何をすればいいのか分かった方はあまりいないと思う。考え方を変えればいいというものではないと思う。例えば南伊勢町が大きな船だとすると船長がどこを目指して出航するのか、目的地がはっきりしないと乗組員が自分の役割をはっきりと理解できない。もっと言えば、12,000人、9,000人と人口が減っていくときにどんな町づくりをするのか、町長がはっきりその方向を示し、そのためにそれぞれが何をすべきか課題を出してくれないと町民も課長さんたちも皆困り果てていると思う。町長の町政に対する考え方が明確ではないのではないかと思う。この町をどうしたいのか、どういう方向へ行くのかがはっきりしていれば様々な意見が言えると思う。(第5回)
- 町全体を見ていろんな問題があると思う。それは重要なものもそうでないものも沢山あると思う。その重要度を整理して優先順位を判断して、そしてそれを誰に分担して、物事を進めていくかを決めるのは町長の役割だと思う。皆が進んでやるとかどうこういう以前にリーダーの町長がはっきりさすべきであると思う。これを町長は皆を集めて総合計画の場で意見を聞くとか言っているが、リーダーは、町全体はこういう状況であってこれから厳しくなっていく、町にはどういう問題があって、どれが正しくて、それぞれの関係がどうなっていて、それを解決するにはどういう順番でやっていく、そしてそれを誰がどう分担していくか、こういう整理は町長以外にはできないと思っている。(第5回)
- 一般に行政というものは南伊勢町の全ての方向をつくるものだとあまり考えられていない。いわゆる行政サービスという市場でうまくいかないようなものを、付託を受けてサービスをしていく。全ての方向を町の行政のトップだからといって町長が決めるというのは、一般的にはそうは考えられていないと理解している。そしてもう一つは、町という行政体にはもう一つ皆さんの代表である議会があって、議会と町との二元的な代表の仕組みをとっている。だから町長がリーダーシップをとるということは必要なのですが、議会が抑制と均衡を図りながらいろんな町の方を決めていくということになっている。(第5回)

委員の見解に対する小山町長の発言（第5回委員会議事メモより）

- 従来のように、町で何とかしてくれというような行政への依存体質から脱却し、町民が地域づくりに参画し、町民と行政が一緒になって協働し、役割分担をしながら、これからの南伊勢町をつくっていかねばならないとの思いを今まで一貫して申し上げているつもりですが、皆様にそのことが分かってもらえるように説明できず反省している。自分の思いは、今までの行政主導、行政依存というあり方が間違っていたのではないかと、町民がもっと参画し、行政と町民が総力をあげて戦っていかないとやっていけないという思いがある。そういう意味で町民、行政の政策達成への関わり方を申し上げてきた。役場は何々をするから住民は何々をするとした構図が必要となる。町民皆が自分たちが考え、関わったまちづくりを進めてほしいと思っている。ただ言葉で言っているだけでも実際は難しい問題だと思う。皆さんから出された意見や政策提案は非常に大事なことであり、この委員会ではなく別の機会に議論するような場を作りたいと思っている。
- 実際に何をどうするかということについては、総合計画を策定するときにかかせて頂きたいと思っている。基本は私が政策提言として書いてあるなかに健康のことも産業のこ

- ともすべて示している。私の目指しているものは「やり方を変える」ということです。
- 今回で5回会議を重ねてきたが、自分の考えがなかなか伝わらないのなら、もっと分かりやすく伝える方法を考える必要があると感じている。
 - 最後まで平行線であったことは残念であったが、委員のなかには次のような感想を寄せてくれた委員がいた。

「委員間の意識の差は確かにあるが、大した問題ではない、新たなモノが生まれる陣痛と思えば素晴らしい事。わが国では「公」をずっと官が仕切ってきた。「お上」つまり上に治める人がいて民衆は勝手なことはするなど。しかし、ようやく近年住民が主権者意識を持つようになり、これまで「官」が担ってきた公共に、住民が参画する分野が増え、官と民の仕事の領域も重なり合う部分が増えた結果「新しい公共」と呼ばれるようになった。問題はそれらが「官の下請け」だったことで、この下請け構造を変えることが「新しい公共」の具体策といえる。いずれにしても、住民は変化に気づき好感し期待を抱いたが、相変らず大衆に寄り添うふりをしながら、驚くべき大衆蔑視の政治が続いた。その一方で、地場産業は沈没し、社会面、政治面から大きな不安感と閉塞感が拡がり、住民の不満と焦燥が先鋭化した。そんな折、「しがらみのない、透明で開かれた町政を！」掲げて、彗星のごとくスマートに登場したのが小山町長であった。住民は清晨な夜明けを迎えた。と大きな夢を膨らませた。この委員会の意義は、まさにそこにあるはず。委員各位の、この町を思う熱意はとても強い。機会を得て大変張り切っている。様々な意見のぶつかりあいは一人心の必死さの表れであり、委員の個性の違いでもある。

3. 委員会の進行状況

南伊勢町町政刷新委員会の設置(2010. 6)

住民の観点から、町政のあり方を刷新するとともに、行政及び各種団体、住民の役割のあり方を検討するため、南伊勢町町政刷新委員会を設置。

【1】委員構成

- ①町の区域内の公共的団体等でその団体等の推薦を得た代表者
- ②学識経験者
- ③公募により選任された住民

【2】委員会の開催内容

委員会では、町長から要請があった検討事項に沿って、町政刷新を実現するための方策について、具体的なテーマを上げながら意見交換を行うことをめざした。発言機会が少しでも多くなるようにとの思いから、第2～4回では3グループに分けて同じテーマで分科会を持ち、最後に全体会でグループ討議の結果を持ち寄った。町長には毎回出席を頂き、最初にこの委員会で検討いただきたい方向性についてお話を頂き、最後に委員会での検討内容をふまえて発言をしていただいた。取り上げたテーマについては、委員会での発言を反映させながら、委員会運営の方針を当初の案から修正しながら試行錯誤をした関係で、一貫性や包括性を欠くが面もあったが、その都度、もっとも重要と考えられるテーマについて取り扱った。議事運営のあり方については、この委員会の性格、また「町政刷新」のイメージに関わる部分もあることから、委員間で様々な意見の相違があった。

◆ 第1回委員会

- ①南伊勢町の現状説明[事務局]
- ②委員会の進め方についての意見交換

◆ 第2回委員会

- ①会議進行の説明
住民参画と情報公開をテーマとしてグループ別会議及び全体会議において議論していただくことを説明。
- ②グループ別会議
→具体事例（交通、健康、産業活性化、町政運営）を用いて、住民参画と情報公開のテーマについて意見交換。
- ③全体会議
→グループ毎の報告及び意見交換。
- ④次回の進め方について意見交換
→委員に委員会へ提案したい事項を求める。

◆ 第3回委員会

- ①傍聴により委員会を公開することを決定
- ②委員会へ提案のあった7名の委員の提案内容を紹介[事務局]
- ③今回の事例テーマについて田畑委員から説明
→提案内容：住民が自分の力で出来ることは何か（一人で出来ること、行政ができるサポート、みんなで力をあわせて出来ること）

④グループ別会議

→提案事例について意見交換。

⑤全体会議

→グループ毎の報告及び意見交換。

⑥次回の提案について佐原委員から説明

→提案内容：10年後、20年後の少子高齢化、転出によって過疎化が進む地域をモデルに、町民の日常生活を予測する。

◆ 第4回委員会

①グループ別会議

→第3回委員会で佐原委員から提案説明のあった、提案事例について意見交換。

②全体会議

→グループ毎の報告及び意見交換。

③次回以降の会議日程について意見交換

→当初予定の5回開催を、1～2回程度増やすことを決定。

◆ 第5回委員会

①5人の委員から提案説明

→荒木委員の提案内容：行政の果たすべき役割

地縁による団体のあり方

佐古委員の提案内容：町財政の立て直しについて

島田委員の提案内容：行財政の見直し及び削減について

議会改革

町民の意識改革

岡井委員の提案内容：人口問題について

新しい集落のあり方

役場職員の意識改革

中西委員の提案内容：ふるさと納税と入湯税による増税について

②全体会議

→提案事例について意見交換。

③次回を最終の委員会とすることを決定

◆ 第6回委員会

①全体会議

→委員会報告書について意見交換。

4. 政策テーマに関する意見交換の内容

1)交通:町営バス

【1】目的・方向性

- 町営バスは必要、特に高齢者の足の確保のために、公共交通機関が必要なことは論を待たない。

【2】実現のための手段、行政の役割・関わり方

- バスの便数を増やしてほしいという要望がある一方で、財政的には限界がある。
- 現状は乗る住民は少なくほとんど空のバスが走っている状況、バス会社への補助金もけっして安価ではない。
- 費用対効果を考えて、三重交通との委託をやめていただいて、住民のニーズということも含めて、アウトソーシングでやっていただきたい。ただひとつ、許認可の関係が難しいのではということもあるようなのですが、そういうことも検討していかなければならないと思う。
- バスの省力化ということで、型を小さくすることと、人件費の削減という観点から、三重交通バスやタクシー会社をリタイアされた方々をもう一度雇うとか、そういうところから必要なときに必要な分だけにして、人件費を省力化しながら費用を削減して、違うところに、税金を平等にみんなのサービスの向上に使えないかと思う。
- 役所の職員から率先して乗るといい。

【3】町民の役割・関わり方

- 普段利用していない。自分で運転できない年寄りしか利用しない。
- 町民は、乗らないバスに関心がない。
- 町民は、どれだけお金がかかっているか認識していない。
- 住民と役場の意識の差をどのように埋めていったらよいのか。
- バス会社に委託するのではなく地域人材を生かし NPO で地域交通を支える方がいいのではないか。
- 交通バスをするときにお金は無限にあるわけではないから、費用対効果で、住民としてはどの程度までのサービスで妥協するのかと、そういうところで参画するべきではないか。

4. 政策テーマに関する意見交換の内容

2)健康:医療と介護

【1】目的・方向性

- 地域医療をどう守るかということで町立病院についての議論もしましたが、交付税措置もあり、地域に医療も必要だし、医師等 100 人程度の雇用があるため、雇用の観点からあったほうが良い。
- 地域医療の場を確保することは南伊勢町にとって大切なことだが、公立病院財政の健全性を保ちながら医療サービスを確保し、かつ国民健康保険の保険料を適正水準に押さえるのはたいへん難しい。
- 地域の医療機関の医師や看護師が、「この町に住みたい、この町で働きたい！」と思わせるような魅力ある町にすることが大切。
- 家で死ぬるのが一番。家庭での介護が充実していればいい。
- 老々介護状態で、家族だけでは介護しきれない。ヘルパーさんを増やして欲しい。

【2】実現のための手段、行政の役割・関わり方

- 財政再建との絡みの中で、地域密着型の診療所方式も一つの選択肢として検討していく必要がある。
- 診療所より病院のほうが補助率等も大きいし、過疎地域で入院患者が多くなってきているのに、病床数も少なく、入院したくても入院できない方も相当数いるので、将来的には診療所より病院の方が良いのでは。
- 町立病院は、医師が2～3年で異動してしまい、住民との信頼関係を築きにくい。左遷されて嫌々来るのではなく、“力を発揮でき、医師を育てられる病院”にする必要がある。
- 地元が協力して診療所がなくなる危機に対応した事例を参考に、「自分でできること」「地域でできること」「行政のできるサポート」を他の事業につなげていければいいと思う。

【3】町民の役割・関わり方

- 一般の人の町立病院の利用は少ない。
- 地域医療を維持することへの町民の危機意識は欠如している。
- 町民が、地域の医療機関が存続できるように協力するという姿勢に欠けているのではないか。
- 町立病院は町の病院なので、町民の方は意見を言う前に、自らも町立病院へ行ってもらって、こういった意味でも町民に協力を求めていっても良いのではないかなと思う。
- 病気にならないように、自ら進んで健康管理に努めることが必要。健康維持のための住民運動を地区ごとに展開するなど、健康維持のための住民運動を地区ごとに展開したり、食習慣などの栄養指導、禁煙運動、健康対策、高齢者なりに健康維持に努めるべき。
- 町立病院の医師から歩きなさいと言われて、朝や夕方に散歩している人が多い。
- 額に汗して働くことで、健康増進に繋がり、医療費も少なくなると思う。
- 町立病院の院長が玄関であいさつをして患者を迎えていることについては、高い給料をもらってそういうことしかできないのかという意見を言う人もあったが、病院職員の意識改革を促しているのではないかなと思っている。ぜひ町立病院には、いつ行っても癒される環境になってほしいと思う。

4. 政策テーマに関する意見交換の内容

3)産業活性化:観光と第一次産業の連携、雇用の創出

【1】目的・方向性

<地域資源・観光>

- 観光を盛んにすることが、すべてにつながるのではないか。
- おいしいもの、よいものなど、豊かな自然に恵まれるなかで、観光などを中心に産業おこしにつなげることができる地域資源はたくさんあるものの、生かし切れない現状がある。
- 名前のついたものだけでも、50 ぐらい良い山がある。登山道の整備を行っているが、この町の一番のセールスポイントは豊かな自然だと思う。
- 南伊勢町の山も、うまく使えば収入源になる。パンフレットをつくって、道案内するか工夫をすればどうか。
- 「野口雨情の乗ったカゴ」が、今でも医王寺に保存されているが、あまり知られていないし、活用されていない。桜山温泉も良質で浜島などに高く売れているのに町内では活用されていない。生かされていないさまざまな資源（たとえば桜山温泉、海水浴場、野口雨情ゆかりの町、海と巡り会える山の道）生かして観光を盛んにすることで、道が開ける。
- 旅館や観光との連携が必要だと思う。
- 「道の駅」を作る話がかつてあった。昔は競合化を恐れて反対だった。観光者（バス）が通る場合、トイレ休憩場所が必要であると聞く。しかし、通過点のない町は、栄えようがないと聞いている。

<産業振興・雇用>

- 町の活性化には、やっぱり働く場所が必要。
- 産業の現場を担っている人たちにはアイデアがあるはず、農業・漁業・観光で問題があるというところこそ雇用があるのではないか。知恵を出して雇用を創出することが絶対必要。現場の声をくみ上げれば夢も希望もある誇りを持って働ける仕事がそこで生み出せるはず。
- 小字単位で地域資源を掘り起こして産業振興をする（鯉節、ホテル、観光ボラ網、切原の草原を活用したギリギリスの養殖）
- それぞれの地区には手に職を持った女性が多い。ヒオウギ貝もどこで売っていいかわからないと聞く。通過していくだけの観光客を足止めさせて特産物やアクセサリを販売できる拠点づくりが必要だと思う。

<漁業>

- 町には、全国に自慢できる水産試験場があるので、そういうところを活用して水産業を活発にできたらと思う。町には漁村が多いので、まず漁村を活性化しなければ。
- 新桑ロッジが売りに出ているが、漁協とも連携して観光客の誘致を図る。流入人口を増やす施策を考えてはと思う。
- 獲るだけの漁業ではなく、資源をどう守り、どう使うか「調整」が必要になっている。未利用の漁業資源を活用することが重要。
- 観光ボラ網漁を行い、獲った魚を持って帰ってもらうとか、肥料や干物にすることも考えていけばと思う。

<産業おこし他>

- 社会保障サービスを通じた産業おこしはどうか。
- 発想の転換が必要で、原発も含めて企業誘致を考えないと、過疎化は止まらない。原発も、よく勉強して良いか悪いかを考える必要があるし、誘致しないならそれに替わる案が必要。
- 町へ入ってくる税を上げるには、陸においては地場産業と観光の合体、漁業においては技術の輸出等が必要ではないかと思うしそういった素地を、今固めなければいつやるのか。外貨の獲得が必要だと思う。この町に住み着いて、次世代に繋げていきたい。
- 第1次産業としての農業だけでなく、第3次産業としても考えるべき。
- 自分たちは産業振興のことだけではあるが、熱い思いを持って月に何十時間も話し合いを行っている。それを何十年も続けている。政策を立案して実行しなければ議員になれない。観光といっても外貨を獲得する方法は万と話し合っている。観光だけを考えていてもいけない。お金が循環していく仕組みづくりが重要だと思う。

【2】実現のための手段、行政の役割・関わり方

- 桜山温泉は、こんな良質な温泉は近くにはないほどの湯である。地域支援事業の中で考えていきたいと思っている。健康、美容、癒しをテーマに産業興しを考えている。
- 観光にしても戦略的に展開する。そこに住民が参画する。
- これから増えるのは中国人なので、それをターゲットにしてはどうか。
- 既存のネットワークを通じて宣伝することも有効的である。
- 企画の取組みの輪を広げて強力に進めようという意見と、せっかくの取組みなので自分達の手でやりたいという意見がある。
- 産業振興のための地域リーダーを育成する。
- 資源の調整や、協力、協議する「場」を立ち上げる必要があるのではないか。
- 行政の支援と協働によって、「海とめぐりあえる山の道」という資源を活かすことができるのではないか。
- 情報発信源としてもっと行政を活用すべきである。
- トイレ整備も必要だと思う。観光の核となる拠点施設についても何年も前から要望しているが実現しない。南島側はインターを下りてから南伊勢町はこちらという看板の一つもない状況である。

【3】町民の役割・関わり方

- この町の人たちは、自分たちが観光地に暮らしているという自覚がない。自覚を持てば、雇用を掘り起こせることができるのではないか。
- 観光資源があることに気がついていないことが問題。外から来た人（お嫁さんなど）がそれを指摘しなければいけないのではないか。
- 外国では子どもたちがボランティアの観光ガイドをしている。それが子どもたちと親たちの意識改革になるのではないか。
- 高齢者も観光の活性化を通じて、社会から必要とされれば、生き甲斐を感じて健康保持にもつながる。
- 若い人たちに喜びを与える雇用を見つけるためにアイデアを全町民に募集したい。
- 行政に対しては、単なる要望だけではなく、活性化対策などとしてはっきり提言していくことが必要。
- 行政や他の団体の力を借りてちょっとでも人口が増えるような希望があれば全力で応援

したいと思っている。

- 例えば、五ヶ所浦では、愛洲さんを最大限に活用し、全国的な剣道大会を実施するとか、老人の方の力を借りて、地区にたくさんある竹を活用して竹刀を作るとか、現在の生活にプラスアルファを狙ってやっていく必要があると思う。
- 住民が協力して「道の駅」にあたるものを作ることはできないか。

4. 政策テーマに関する意見交換の内容

4) 町政運営: 財政健全化

【1】目的・方向性

- この町で一番大切なのは財政再建だと思う。行政刷新は、財政の刷新でもあると思う。
- 町を運営していくには、収支のバランスが大事である。
- 財政的に自立する用意はしておかなければならない。
- これから人口が減ってきて、税金もあまり入らなくなり、養老院だとか 病院だとか老人対策のための施設が相当必要となってくると思う。それには相当のお金もかかってくる。そうなれば企業誘致なり、観光なり何なりで税収を上げていかなければならない。
- 高齢化対策として、財政需要が増えるのだから財政面から見直す必要がある。
- 県内市町のなかでも財政状況はけっして健全ではない。町財政が健全でないと今後、何かと不安が大きい。歳入、歳出両面からの見直しが必要で、事業仕分けも必要ではないか。議員や委員報酬の削減など、議会、行政のリストラを行ってこそ、町民もついてくるのではないか。

【2】実現のための手段、行政の役割・関わり方

- 貧しさにも限度があり、養老院にも入れないのでは困ってしまう。病院がないのも困ってしまうし、交通の便がないのも困ってしまう。裏側でお金が必要となってくる。計算すれば何億がいるということが分かると思う。そしていかにしてそのお金を集めるかを考え、具体的に手を打っていかなければならない。
- 限られた財政のなかで最大の効果を出すために合理的な手段をとることが町行政の役割だから、それについてどう判断したかを町民に説明できなければいけない。
- 財政が悪いということへの危機意識が役場に少なすぎるのではないか。住民には財政の話はわかりにくいこともあって、関心が薄いではないか。町長が行っている町政報告会を通じた説明はある程度意味があり、自分が納めた税金の使い道がどうなっているかを通じて意識付けを行うことにつながる。
- 弱者救済は行政の仕事であるが、費用対効果で、どこまで行政サービスをするかは、住民側で議論すべきこと。そのための資料を、行政は提供すべきである。
- 税収を増やすことは難しいと言っても財政需要は確実に増えてくる、また人口は減ってくるわけだから、最低必要な税収はどれだけとってくるか大まかな目処ははっきりしたうえで、そのためにはありとあらゆることをしなくてはいけない。その金額とかレベルというものを示してもらう必要がある。これは町が出さないと町民では分からない。それをはっきり出すことによっていろんな議論が出来ることになる。
- いくら行政が頑張っても、抜け道ができてしまい、税金を不正に逃れるとかをよく見かけるが、行政が厳格にチェックをする仕組みを作らないと刷新どころではない。
- 町立病院には、一般会計から多額の繰り入れをしている。企業会計であり、独立採算として経営努力すべき。
- 委託料、補助金、負担金などについても、委託先等が最適任者なのか再検討しなければならない。

【3】町民の役割・関わり方

- 財政への危機感を住民が持つべき。
- 健康づくりを進めていくことにより、医療費が少なくなり財政負担の軽減につながる。
- 取れる税金をきちっと取っていないと思う。住民参画で徴収率のアップを図ってはどうか。

4. 政策テーマに関する意見交換の内容

5) 町政運営: 地域運営

【1】目的・方向性

- 町のスローガンというか理念を確立する必要がある。
- 町に何かをしてほしいというのではなく、町民が、何ができるのか、町のために何ができるのかという発想の転換をしなければならないと思う。
- 地域資源を生かしてまちづくりをしようとしても、住民意識が冷めていて、他人事のように思っている。それは、どんな町をつくるかのビジョンがないからで、ビジョンを共有したうえで、きちんと責任を与えられれば住民はやれるはずだ。
- 一番大事なのは町長の言うとおりの安心・安全な町をつくることだと思う。
- 全体的に豊かな分だけ、危機意識が住民のなかで薄いのではないか。ここで結婚して生活ができるようになっていけないのか。ここで生活できる町にしたい。
- この南伊勢町から成長した子どもたちが出ていなくてもよいように、住み続けられるよう夢と希望のある町にしなければならない。
- 人口設定をしないと目指すべき方向が見いだせない。それによって打つべき政策が変わってくる。このまま減らすのか、人口増を目指すのか示していただきたい。
- 必ずやるという強い信念が必要。
- 産官学が皆で連携することが重要。
- 馴れ合いから緊張感は生まれない、馴れ合いから生まれるのは不正であり、それが腐敗に繋がっていくので、事なかれ主義というのは見直していかなければならない。
- いろいろな取組みが、いろいろな団体でなされているが、それぞれがバラバラの取組みになっている。連携協力することで、より効果がでるのではないか。
- 単発的なイベントではなく、一年を通して持続できるものを考えていけばと思っている。四季折々のものを、知恵を出し合って考えていくことが大切だと思う。
- PRの仕方がすごく大事だと思う。

【2】実現のための手段、行政の役割・関わり方

- 必要以上の不安を与える必要はないが、危機感を持ってもらわなければならない。
- 自由闊達な話し合いの場をつくる。
- 資源の調整や、協力、協議する「場」を立ち上げることが必要ではないか。
- 今行動を起こさなかったら、先にビジョンを持つことができない。

【3】町民の役割・関わり方

- 町の伝統・公共を守る住民の取り組む意識が希薄である。
- 我々がなんとかしようという意識が必要。
- 一人ひとりのハートに火を付けないと住民参画とはならないと思う。
- 住民も一人ひとりが、身近なところでできることをやればよい。
- 依存せずに自らがやりましょうということが共通の認識だったと思う。
- 住民と議員が協力して行動する。
- 町内の区で、我が区では何ができるのかということを考えてもらってはどうか。
- 区長に啓蒙活動をしてほしい。

- 最近、地方の時代へと変わってきているので、その機会を捉えて、他立から自立へ、こういうことで、今後の委員会が個々に具体的な部分に入っていければと思う。
- 新たな町のみんなの祭りをつくっていくために、今までの2町の「商工まつり」をなくした。新たなイベントの名称を住民に公募した。「わくドキ南伊勢」に決定した。
- 今後も住民が参加する活動で、行政、商工会がお互いに提案・意見を言っていけるような関係にしたい。
- 町内では、それぞれの業種、団体においていろいろなことに取り組んでいるが、互いの交流も必要である。

4. 政策テーマに関する意見交換の内容

6) 町政運営：行政運営

【1】目的・方向性

- まちづくりに対する職員の熱意が感じられない。住民の目には、投げやりに見えるところもある。住民と意識のずれがある。残念ながら、役場の政策運営能力は弱いといわざるを得ないのではないかな。
- 行政も地方経営であり、経営という意味からもう少し意識改革をなささい、だからこういう結果が出てきていると、ここで皆さんとのギャップが明らかになったと思う。
- 住民の要望について、なぜ出来ないのか、十分な説明がされない場合がある。
- 行政情報は増えたが、必ずしも共有されていない。大量に住民に送られても、分厚い冊子に目を通す住民は少ないし、住民にとっては行政用語など分かりにくいものがある。情報提供については、周知の仕方を工夫すべき。努めてわかりやすい工夫をすべき。
- 町行政の側も実態を把握しきれていない。

【2】実現のための手段、行政の役割・関わり方

- QC 運動を取り入れるなど、やる気を出す方法を考えてはどうか。
- 組織風土改革に取組めばどうか。
- 人材育成の必要がある。
- インターネットを通じた情報提供は有効だがそれでは高齢者にはかえって届きにくいのではないかな。マスコミの取り上げられるような戦略が必要なのではないかな。
- I T V や子供議会はわかりやすいので、活用すると見やすい。
- 本当に伝えたいことは、地区で紙一枚もしくは半枚にして知らせるのが一番。
- 住民のニーズを把握するために住民の声を集めることが必要。

【3】町民の役割・関わり方

- バスでも、病院でも、住民は要望するが、それほど利用しない。意見を言うだけではなく、住民も支えていくという意識が必要である。
- 官民それぞれが動いていくことが必要。自分たちも役場に近づくことが必要。
- 役場任せにしないで、住民側も実態を調べて役場に伝える努力をする、協力体制をつくる必要がある。
- 住民に対する情報があまりよく出ていないなどの意見があったと思うが、住民が参画するといっても、そもそも役場がちゃんと情報提供していない。そういうことを整理して、皆さんが合意できることを役場に対して強く求めていく必要がある。
- 住民は役場職員とのコミュニケーションがうまくできていない。その反面で、職員を追い込んでいるのは住民であるところもある。住民と役場職員との間の心のチャンネルは切れている。行政ともキャッチボールがしたい。
- 受ける側も「わかった」という信号を送る必要がある。
- 住民提案制度を設けてはどうか。
- どうしたらいいか強い思いを持って、行政と住民が熱心に話し合っていかなければならない。

5. 委員が提案したテーマに関する意見交換の内容

1) 町の将来予測：限界集落

- 第4回の委員会では、人口減少と高齢化が深刻な2地区を取り上げて、その将来をどう支えるかを話し合った。
- 人口減と高齢化はたいへんなスピードで進む。買い物の手段はどう用意するか、医療機関は支えきれぬのか、地域活動を支えるにも担い手がいるのか。
- いずれも問題はたいへん深刻であり、それに対する危機感を共有し、それを打開するための方策が一刻も早く必要であることが認識できた。

現在の日常生活と5年後・10年後の予測

現在の日常生活

10年後に向かって

生活分野	項目		特記事項	交通
医療・老人	南島メディカルセンター	50%	高齢者・弱者は頼りにしている	送迎バス
	小嶋医院	20%	将来、運用、医者不足が問題、不安	マイカー
	伊勢・松坂	30%	軽症でもお金に余裕のある人 重篤な人日赤	マイカー 渡会タクシー相乗り
	老人	養老院 特養	国民年金では入所困難、不安 国民年金で入所可能、長期間順番待ち	
買い物	スーパー	寿屋がメイン アルファ	地元ではないので撤退がありうる	徒歩 マイカー
	その他	伊勢、松坂で買いだめ 個人商店	今はない。寿屋なくなれば復活	マイカー
	教育	小学校、中学 高校	混合学級になりそう 南伊勢高校は教員	教育の質心配、統合後も地元に残る 伊勢、松坂に通学、そちらに家を建てる
その他	親の扶養などがなくなれば子供の元に行きたい 仕事がない。伊勢、松坂に通勤できないので子供はみんな出て行く			

高齢化、人口減少は進む
仕事ないので転出進む
南島メディカルセンターの
体制が整わなければ不安
転出者が多数になり
急激な過疎化が進む恐れ
マイカーは生活に欠かせない
南島メディカルセンターの
送迎、伊勢松坂通院など
などタクシーの利用が多い
民営タクシーの存在が
生活に欠かせない。
経営が心配

医療・老人	南島メディカルセンター	高齢者が運転している。いつまでできるか	マイカー送迎バス
救急	小嶋医院	不安	マイカー
買い物	伊勢、松坂に搬送		救急車
	古輪浦の壽屋	バス停まで1.5km 手押し車で歩いていく	マイカー
教育	行商		
		該当者がいない	
31人	半数の世帯が高齢者の一人暮らし マイカーが命綱、運転できる高齢者だより		
これから先のことはあまり考えていない。今年も3人なくなった 空き家が半分ある。親がなくなってもお盆に子供が帰ってくる			
その他	ひっそりとテレビなどを見て暮らす。 人がなくなっても共同で暮らす気持ちはない いまさら子供の世話にはなりたくない。		

車の運転ができる人が
いなくなると自立不可能
になる。
5年以内に確実

高齢者の一人暮らしが
過半を占め、24時間通した
公的支援体制がないと
生活できなくなる

新桑

5. 委員が提案したテーマに関する意見交換の内容

2)町の将来像:人口増に向けて

- 第3回の委員会で、「住民が自分の力で出来ることは何か（一人で出来ること、行政が出来るサポート、みんなで力をあわせて出来ること）」をもとにグループ別会議を行ったところ、町の人口減少傾向に対して、将来人口増を図る提案があった。

○人口の現状→4年間で1800人の減少していくなかで

◆**人口を増やす** — 人が減ったら投資するだけ無駄 — 人が増えてこそ儲け続けられる

↓ （1800人減少に対して3000人1500世帯の増が必要）

①子どもを産めるようにする ← 結婚しない ← お見合いイベント ← 町外・町内

②死なないようにする 5年で15組、2組結婚したが→町外へ転出

③外から連れてくる

↑

行政は町外に行かなくて良い環境づくりを！
（町は、町に住む条件で職員を採用しているが、
採用後に転居してしまう）

新しいサービスの創出 { 仕事する世代
リタイア世代

（日本には500万人の潜在需要がある）

（月に30万円の消費） ↑

南伊勢町に魅力がある

- ・本州の真ん中
- ・美しい自然

安心して溶け込める居住エリアをつくる ⇒ 全員の経営体をつくる！！

- ・700万の建物一定期借地権 生きがい＝地域に貢献できることをサポートする
- ・水洗トイレは必要

↓

20～30軒のモデル地域をつくり → PR → 2～3ヵ所へつなげていく

6. 町政刷新委員会のまとめ

- 1 本委員会で行なわれた議論の概要は、この『南伊勢町行政刷新委員会最終報告』の1～5の項目に記載しているとおりである。各委員から提出された意見は、今後の町政運営の参考とされたい。

また、町長からの諮問は、町政のあり方であったが、政策面での意見・提言も数多く出された。これらも、今後の町行政の参考とされることを望む。

特に、今後策定予定の、町の総合計画の検討に活用されることを期待する。また、町民が主役の町政運営にあって、町民が過度に行政依存に陥ることなく、自ら進んで積極的に町政のあり方に貢献することをあわせて期待する。

- 2 今後の町政のあり方について、この委員会として、次のように提言する。

少子高齢・人口減少の進む本町においては、人口の定住、産業振興に取り組み、若者が希望のもてる活力ある豊かな町にしたいということが、町民共通の願いである。そのためには町財政を建て直し、健全化を実現することが大前提である。

しかしながら、それを実現するためには、役場に任せておいてよいものではなく、「町民と役場が一体となって新しい南伊勢町を創っていく」ことが必要である。

そのためには、町政のあり方としては、次のような改革が必要である。

- (1) 町の将来にとって重要な案件については、町民と役場がともに検討する「場」を設けること。

現在の「町民参画」は、役場によって検討され出来上がったものについて意見をいうものであるが、もっと早い段階から、町民と役場がともに知恵をしぼる必要があると考える。

➤ 委員から出された主な意見（町民参画にかかわるところのみ）

交通	● 交通バスをするときにお金は無限にあるわけではないから、費用対効果で、住民としてはどの程度までのサービスで妥協するのかと、そういうところで参画するべきではないか。
産業活性化	● 自由闊達な話し合いの場をつくる。 ● 資源の調整や、協力、協議する「場」を立ち上げることが必要なのではないか。 ● 行政に対しては、単なる要望だけではなく、活性化対策などとしてはっきり提言していくことが必要。
地域運営	● 町内では、それぞれの業種、団体においていろいろなことに取り組んでいるが、互いの交流も必要である。 ● 最近、地方の時代へと変わってきているので、その機会を捉えて、他立から自立へ、こういうことで、今後の委員会が個々に具体的な部分に入っていければと思う。
行政運営	● どうしたらいいか強い思いを持って、行政と住民が熱心に話し合っていかなければならない。

- (2) また、ともに検討した結果については、役場任せにするのではなく、町民自らも取り組み、町民と役場が協力し合って進めるようにしなければならない。

➤ 委員から出された主な意見（町民参画にかかわるところのみ）

健康	● 地元が協力して診療所がなくなる危機に対応した事例を参考に、「自分でできること」「地域でできること」「行政のできるサポート」を他の事業につなげていけばいいと思う。 ● 町民が、地域の医療機関が存続できるように協力するという姿勢に欠けているのではないか。 ● 町立病院は町の病院なので、町民の方は意見を言う前に、自らも町立病院へ行ってもらって、こういった意味でも町民に協力を求めているのも良いのではないかと思う。 ● 病気にならないように、自ら進んで健康管理に努めることが必要。健康維持のための住民運動を地区ごとに展開したり、食習慣などの栄養指導、禁煙運動、健康対策、高齢者なりに健康維持に努めるべき。
産業活性化	● 観光にしても戦略的に展開する。そこに住民が参画する。 ● 産業振興のための地域リーダーを育成する。 ● 行政の支援と協働によって、「海とめぐりあえる山の道」という資源を活かすことができるのではないか。 ● この町の人たちは、自分たちが観光地に暮らしているという自覚がない。自覚を持てば、雇用を掘り起こせることができるのではないか。 ● 高齢者も観光の活性化を通じて、社会から必要とされれば、生き甲斐を感じて健康保持にもつながる。 ● 住民が協力して「道の駅」に当たるものを作ることはできないか。
財政健全化	● 健康づくりを進めていくことにより、医療費が少なくなり財政負担の軽減につながる。
地域運営	● いろいろな取組みが、いろいろな団体でなされているが、それぞれがバラバラの取組みになっている。連携協力することで、より効果がでるのではないか。 ● 一人ひとりのハートに火を付けないと住民参画とはならないと思う。 ● 住民も一人ひとりが、身近なところでできることをやればよい。 ● 依存せずに自らがやりましょうということが共通の認識だったと思う。 ● 我々がなんとかしようという意識が必要。
行政運営	● バスでも、病院でも、住民は要望するが、それほど利用しない。意見を言うだけではなく、住民も支えていくという意識が必要である。 ● 官民それぞれが動いていくことが必要。自分たちも役場に近づくことが必要。 ● 役場任せにしないで、住民側も実態を調べて役場に伝える努力をする、協力体制をつくる必要がある。 ● 住民は役場職員とのコミュニケーションがうまくできていない。その反面で、職員を追い込んでいるのは住民であるところもある。住民と役場職員との間の心のチャンネルは切れている。行政ともキャッチボールがしたい。

(3) 以上のような、連携・協力を実現する大前提として、町民と役場は、必要な情報を共有しなければならない。

役場は、もっと積極的に情報を提供するとともに、町民からも情報を集めて、町の実態やニーズを把握し、それをふたたび町民に伝えるといった努力が必要である。

また、情報を提供するにあたっては、単にたくさんの情報を出すだけではなく、町民の側に立って分かりやすく、届きやすいように工夫をしなければならない。

➤ 委員から出された主な意見（町民参画にかかわるところのみ）

企画段階	● 住民のニーズを把握するために住民の声を集めることが必要。【行政運営】 ● 住民の要望について、なぜ出来ないのか、十分な説明がされない場合がある。【行政運営】 ● 限られた財政のなかで最大の効果を出すために合理的な手段をとることが町行政の役割だから、それについてどう判断したかを町民に説明できなければいけない。【財政健全化】
実行段階	● 行政情報は増えたが、必ずしも共有されていない。大量に住民に送られても、分厚い冊子に目を通す住民は少ないし、住民にとっては行政用語など分かりにくいものがある。情報提供については、周知のし方を工夫すべき。努めてわかりやすい工夫をすべき。【行政運営】 ● 住民に対する情報があまりよく出ていないなどの意見があったと思うが、住民が参画するといっても、そもそも役場がちゃんと情報提供していない。そういうことを整理して、皆さんが合意できることを役場に対して強く求めていく必要がある。【行政運営】
評価段階	● 弱者救済は行政の仕事であるが、費用対効果で、どこまで行政サービスをするかは、住民側で議論すべきこと。そのための資料を、行政は提供すべきである。【財政健全化】
改善段階	● 情報発信源としてもっと行政を活用すべきである。【産業活性化】

なお、町政のあり方を変えていくためには、町民、役場双方の努力が必要ではあるが、一人ひとりの町民の力で町政のあり方を変えていくことは大変難しいことである。まず、現状に強い危機感を持って、町長がリーダーシップを発揮し、町職員が自分達こそ町づくりの先頭に立つとの決意を表明し、具体的行動に1日も早く移すことである。町政のあり方が、町民と役場との協働を前提としたものへと改革されることを強く要望する。

3 特に、町の総合計画の策定について、次のように提言する。

- (1) 総合計画の「基本構想」は、「町民と役場が一体となって新しい南伊勢町を創っていく」という共有する理念をもとに策定すべきである。
- (2) そのために、役場の案が固まる前に、町民と共に考える「場」をもつべきである。

◆ 南伊勢町町政刷新イメージ

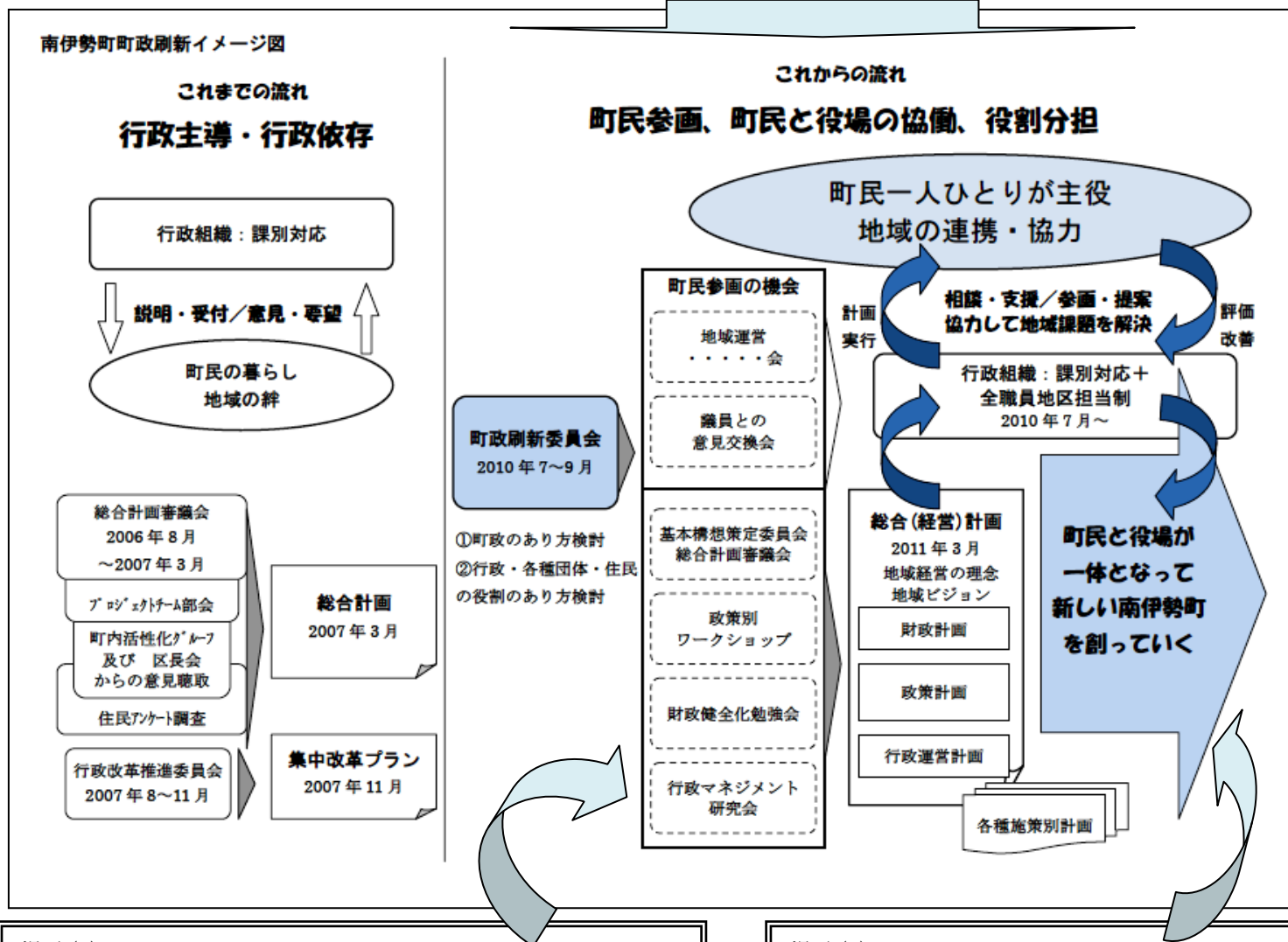
町政のあり方を変えていくためには、町民、役場双方の努力が必要ではあるが、一人ひとりの町民の力で町政のあり方を変えていくことは大変難しいことである。まず、現状に強い危機感を持って、町長がリーダーシップを発揮し、町職員が自分達こそ町づくりの先頭に立つとの決意を表明し、具体的行動に1日も早く移すことである。町政のあり方が、町民との協働を前提としたものへと改革されることを強く要望する。

提言(3)

以上のような、連携・協力を実現する大前提として、町民と役場は、必要な情報を共有しなければならない。

役場は、もっと積極的に情報を提供するとともに、町民からも情報を集めて、町の実態やニーズを把握し、それをふたたび町民に伝えるといった努力が必要である。

また、情報を提供するにあたっては、単にたくさんの情報を出すだけではなく、町民の側に立って分かりやすく、届きやすいように工夫をしなければならない。



提言(1)

町の将来にとって重要な案件については、町民と役場がともに検討する「場」を設けること。

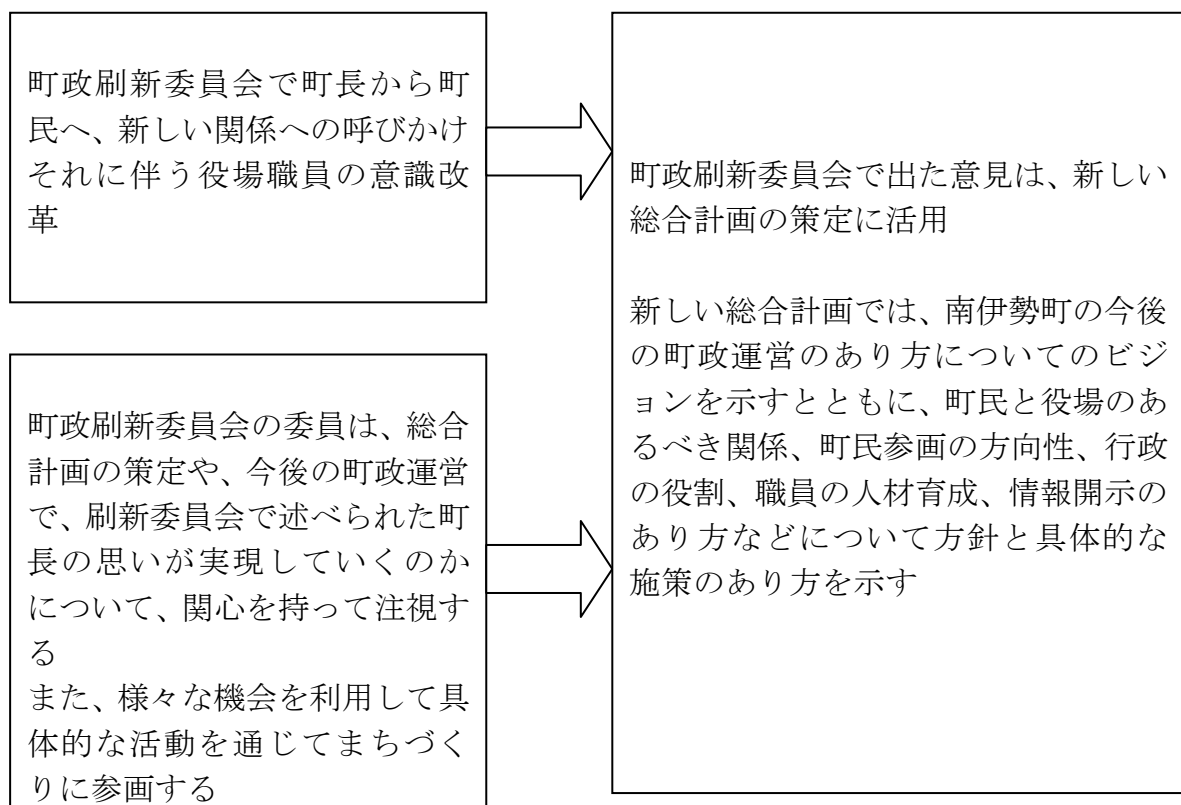
現在の「町民参画」は、役場によって検討され出来上がったものについて意見をいうものであるが、もっと早い段階から、役場と町民がともに知恵をしばる必要があると考える。

提言(2)

また、ともに検討した結果については、役場任せにするのではなく、町民自らも取り組み、役場と町民が協力し合って進めるようにしなければならない。

7. 町政刷新委員会後の取組みに向けて

- この委員会は、今までのしがらみから離れて新たに発想の転換をするような新しい委員会だと思う。
 - 当委員会も終わったときに、税金の無駄遣いじゃないと言われるような委員会では意味が無い。
 - 今は、議論している場合じゃなく、まずはアクションをおこすべきだと思う。
- 本委員会委員のほぼ共通した思いは、
- 人口減がはなはだしい本町において、若者が定住できる希望のあるまちにしたい。
 - そのため産業を振興し、住環境（住宅・買い物・医療機関等）を整えることが絶対の条件、町財政も健全にしたい。
 - その上で、町民が協力して地域を守り、次世代に引き渡す活動に邁進することにつきる。



- 町政刷新委員会の委員は、今後の総合計画の策定や、町政運営において、町政刷新委員会で述べられた町長の思いが実現していくのかについて、関心を持って注視する。
- また、様々な機会を利用して具体的な活動を通じてまちづくりに参画する。
- 町政刷新委員会が出た意見は、新しい総合計画の策定に活用されることを強く期待する。
- 新しい総合計画では、南伊勢町の今後の町政運営のあり方についての理念とビジョンを示すとともに、町民と役場のあるべき関係、町民参画の方向性、行政の役割、職員の人材育成、情報開示のあり方などについて方針と具体的な施策のあり方を示すものとされなければならない。

・ 8. 町政刷新委員会を受けて、小山町長からのメッセージ

6月28日から9月27日までの間6回の町政刷新委員会を開催していただきました。

10名の団体等の代表者委員と3名の学識経験者委員、そして、7名の公募委員の総数20名の委員のみなさまにこれからの町政の在り方などについて熱の入った議論を展開していただき、今後の町政運営に生かしていく貴重なご意見・ご提案を多数いただきました。

私は南伊勢町を、町民のみなさんが安全に安心して幸せに暮らせる町に、そして、一人ひとりが町政に参画し、人と地域の絆が大切にされ、希望を持ち誇れる町にしていくためには、「町民と役場が一体となって新しい南伊勢町を創っていく」ことこそが必要だと感じています。

それには、今まではどちらかと言えば「行政主導・行政依存」であった町政運営を、これからは「町民参画、町民と役場の協働・役割分担」で、町民ひとり一人が主役となり地域の連携・協力による町政運営に変えていかなければならないと思っています。

6回の町政刷新委員会では、委員のみなさまから、

- ・財政健全化や行政改革
- ・人口減少問題
- ・町営バス、地域医療と介護、観光と一次産業の連携など産業活性化と雇用など
- ・町政情報の提供と共有

などについて数々の貴重なご意見やご提案をいただくとともに、その中で、政策の策定、実行のための行政（役場）の役割・関わり方、町民の役割・関わり方についてご意見等をいただきました。

委員会でのみなさまのご意見、ご提案等は、新しい総合計画の策定にあたって活用させていただきますとともに、特に重要な政策案件については計画の段階から町民と役場が情報を共有してともに考え、その実行にあたっては町民と役場が協力し合い、また役割分担しながら取り組んでいきます。

町政刷新委員会のご提言を、今後の町政運営の基本に据えて新しい南伊勢町づくりに取り組んでいきます。

各委員のみなさまには大変ご多忙の中を委員会のために日程調整をお願いし、毎回長時間にわたり終始熱心な議論を行っていただきありがとうございました。

また、会議のための調査、資料作成等々にも多くのお時間を費やしていただき感謝申し上げます。特に学識経験者委員のみなさまには報告書等作成にあたり並々ならぬお世話と頂き感謝申し上げます。

委員会運営にあたりまして、委員長、副委員長には大変なご尽力を賜り誠にありがとうございました。

平成 22 年 2 月 22 日

南伊勢町告示第 7 号

(設置)

第 1 条 住民の観点から、町政のあり方を刷新するとともに、行政及び各種団体、住民の役割のあり方を検討するため、南伊勢町町政刷新委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(議事事項)

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項について意見交換を行う

- (1) 町政のあり方に関すること。
- (2) 行政及び団体、住民の役割のあり方に関すること。
- (3) その他町政に関することで町長が特に意見を求めること。

(組織)

第 3 条 委員会の委員は、20 名以内で構成する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから町長が委嘱する。

- (1) 町の区域内の公共的団体等でその団体等の推薦を得た代表者
- (2) 学識経験者
- (3) 公募により選任された住民
- (4) 前 3 号に掲げる者のほか、町長が特に必要と認める者

3 公募の方法等は、町長が別に定める。

4 委員の任期は委嘱を受けた当該年度の末日までとする。

(委員長及び副委員長)

第 4 条 委員会に委員長及び副委員長各 1 名を置く。

2 委員長及び副委員長は町長が指名する。

3 委員長は会務を総理し、会議を代表する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第 5 条 委員会は、町長の要請に基づいて、委員長が召集し、委員長がその議長となる。

(関係者の出席)

第 6 条 委員会は、必要に応じ委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聞くことができる。

(庶務)

第 7 条 委員会の庶務は、行政経営課において処理する。

(その他)

第 8 条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営その他必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成 22 年 2 月 22 日から施行する。

南伊勢町政刷新委員会委員名簿

役 職	所 属	氏 名	備 考
委員長	関西学院大学教授	小西 砂千夫	学識経験者
副委員長	南伊勢町区長連絡協議会	田畑 紀實	団体等の代表者
	南伊勢町商工会	加藤 豊也	団体等の代表者
	南伊勢町農業委員会	山本 績	団体等の代表者
	三重外湾漁業協同組合	植村 寿成	団体等の代表者
	南伊勢町観光協会	中西 利子	団体等の代表者
	南伊勢町民生児童委員協議会	設楽 勝子	団体等の代表者
	南伊勢町老人クラブ連合会	岡井 永光	団体等の代表者
	南伊勢町 PTA 連合会	奥村 隆史	団体等の代表者
	南伊勢町婦人会	丹生 しず	団体等の代表者
	古和浦未来クラブ	長井 文夫	団体等の代表者
	三重中京大学教授	村林 守	学識経験者
	(株)スコラ・コンサルト プロセスデザイナー	元吉 由紀子	学識経験者
	公募による委員	光永 智子	
	公募による委員	田畑 由美	
	公募による委員	佐古 清	
	公募による委員	寺田 喜一郎	
	公募による委員	島田 和美	
	公募による委員	荒木 義明	
	公募による委員	佐原 東	

(順不同)